

---

みやび物語』

実在の人物が学習障害と統合失調症になるまでと病が改善するまでの話にする

シー様（水嶋ヒロ + 齋藤智裕） = 十字軍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『みやび物語』 実在の人物が学習障害と統合失調症になるまでと病が改善するまでの話にする話

### 【Nコード】

N5846P

### 【作者名】

シー様（水嶋ヒロ＋齋藤智裕） 〓 十字軍

### 【あらすじ】

「病気は改善する方法は無いのか？」という問いが解決するまで作者が諦められない話

一回目の攻撃!! (前書き)

実在の人物URL

http://mypage.syosetu.com/844  
61/

http://fblog.jp/miyabi/archiv  
es/2010-05?p=6

## 一回目の攻撃！！

みやびの父は30歳、親とともに内科病院を経営していた。そんなある日、彼は、これから奥さんとなる女に出会う。

二人の出会いは、知り合い同士で開催した、お見合いパーティーである。

みやびの父＝パパ

みやびの母＝ママ

とする

ママはその頃、事務員的なOLをしていた。気楽なOL生活を満喫していたが、金持ちとの玉の輿を夢見ていた。ママの生まれは、それ程、裕福ではなかったたので、どうしてもママの両親を金銭的に幸せにしたい。ママは、このお見合いが絶好のチャンスだった。なんとかパパをものにする為に頑張って自分を作り結婚した。無論、顔とかいろいろ好みに合致していたのだろう。でなければ、早い段階での結婚には至らない。

しかし、夢見ていた現実は違った。最近、ドラマでやってた「フリーター家を買う」の開業医の妻の様に形見の狭い思いをしていた。

しかし、それも我慢の内、待望の子供も妊娠した。だが妊婦であるにも関わらずママは働かされた。重い荷物を持たされ働かされ、この金持ちの家の世間からズレタ常識を見せ付けられた。時代おくれというものだろう。老人たちの世代は、妊婦でも働くのが常識だったからである。でも、ママの世代にそれを強要しても異質すぎで、受け入れがたく、理不尽さしか感じない。けれど今更、離婚はできない。ママは頑張って困難を乗り越えた。そして待望の赤ちゃんが生まれる。死ぬかと思った。地獄かと思った。出産だというのにパパは仕事で忙しくて立ち会ってくれない。その上、これまで、

姑の「仕事をしろ！」という高圧的な命令を、パパは見ていたのに関わらず、親に逆らうのが怖くてママの気持ちを無視<sup>スルー</sup>した。

ママは出産の時点で、すでに、子供の事はどうでも良くなっていた。誰かも愛されないのに誰かを愛せるはずが無い。既にパパへの愛も冷めていた。

そして、ただ、この出産の苦痛が終わる事だけを願っていた。しかし、生んでみると可愛いものだ。頑張って生んだのだから、運命共同体の様に思え急に愛おしくなった。

しかし、その愛も冷めていく。

姑、子育てにしつこく関与してきた。なんでも、みやびを甘やかして育てた。でもママはみやびの為に厳しくみやびをしつけ様とする。しかしそれを姑は非常識として周辺に噂を流した。

ママにはそれが悪意ににしか受け取られなかった。自分の事を良くない母として人に愚痴を言う姑が、悪意を持ち己の悪口を広めたい<sup>い</sup>る<sup>い</sup>として思えなかった。

ママは、どこにも居場所が無かった。結婚しなければ良かったと自覚した。

でも、もう遅い。耐えて自分の両親と娘を幸せにしなければならぬ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>。

姑の言うがままに従った。

けれど、娘は成長することに、自分では無く、パパの両親に懐いた。空しかった。悔しかった。絶望した。自分の生きがいになるかもしれない、みやびが、憎い相手と繋がっている。

頑張っ<sup>て</sup>て自分は迫害に耐えているのに、この家は余りに酷い仕打ちをママにした。

ママは、もう、どうでも良くなった。

どうでも良くなる前に、代2の子も授かっていたので、もう、どうにも成らない。

だけど、愛そうと頑張った。

でも、日常にママの幸せは存在しない。

誰かを愛す心の余裕など無かったママは、つい娘が苛めて苦しんでいるのに「死ね」と発言してしまった。

謝ろうと思った。酷い罪をみやびにしまったと後悔した。

けれど、みやびは、やっぱり、憎い姑を求めた。

それを見た瞬間、ママは謝れなくなった。

自分が謝る必要がどこにあるのか。

謝ったところで、あんな風に姑と娘の様に楽しい思いで毎日が過ごせるはずが無い。

誰よりも頑張ったのに、自ら下手に出て謝れる筈がない。

プライドが自分の過ちを認められない。

ママは、全てを諦めて、現状維持が精一杯になってしまった。

みやびは、いじめに耐え抜き、立派に成長した。

ママは、みやびを凄いい女だと感じていた矢先、家から、みやびは出て行ってしまった。みやびは、都会で頑張った。就職して頑張った。けれど親に愛されて無いと自覚するみやびは、誰の期待を胸に抱いて生きているか判らないので、生きる意味が見出せなかった。

機械のような日々の生活に耐えた彼女は壊れた。統合失調症になった。

いつも、自分は誰からも必要とされず死んだほうがマシだと感じていた彼女は、いつもその事ばかりしか考えずに、生死を葛藤し、疲弊した。

だからこそ、精神が崩壊した。いじめに耐える習慣が根づくよ深層心理に残り、頑張らなければ成らないプレーシャーに押しつぶされた。

学校生活なら、甘えられる姑が居たりと、遊びがあり何とか耐えら

れた。

けれど、今は、誰の愛も感じられず、永遠と定年まで続く仕事が続いている。

だからこそ、精神が壊れるまで、踏み込み、自分を追い込んでしまった。

その頃、実家の両親は娘が病気がなったと知った。

ママは同情して少しだけ可愛そうに思った。勿論、自分の方が人生を頑張ったと自負しているので、軟弱な子供だと思ってる。

パパは自分の勝ち組人生しか知らないなので、軟弱な娘だと思った。しかし、このままではいけない。

親として生きる希望を与えたかった。

夢をみさせてあげる為に声優の道を応援した。

そうすれば、自分の思う、強い子になると信じていた。

だが、みやびは強い子である。強からこそ、過酷な人生に耐えて壊れた。

それが判らない限り、両親は、みやびを傷つけ続ける。

みやびの状況を抜け出させてやれる器が己にあると自負して、高みからミヤビを見る限り、彼女は親の愛を感じる事など出来る筈がない。

壊れた彼女は、とめどなく使命を与え続ける家族に憎悪する。

その憎悪は両親の目に「我俣でどうしようもない不出来な子供」として移った。

彼女は幸い彼の支えがあったからこそ、現状死ななくて済んでいる。しかしその彼にしても、親と社会から植え付けられたトラウマで、幸せに成り得ない。

働けない自分を彼のお荷物として自責の念を持ち、やはり自殺未遂を繰り返してしまう。

どうか、これをミヤビの家族が読んでたら、後悔して神に懺悔しなさい。そして苛めた者たちも、懺悔しなさい。

これから、そうなるかも知れない者も懺悔しなさい。

この真実の物語を誰にも伝えようとしない者も懺悔しなさい。

懺悔できないものは、いずれ、知らないうちに、誰かを傷つけ、そして不幸にする。

懺悔できないものは、いずれ、訳も判らず誰かに傷つけられ、そして不幸になる。

私は、これを読んでも君たちの意見を尊重する。この後は判断は君たちに任せる。君たちの人生だから自由にしたまえ。

だが、私は信じている。ここまで読み終わった人間は恐らく、超が付く程の善人なのであるから・・・



嘘

実は前回の作り話である。本当はみやびのママは苦勞など一切していない。

虐めで泣いて親にすぎる子供が自殺しようとしているのに「死ね」と言えるのは、娘の事を本当に疎ましく思っていたからだ。

母は己の人生で全く苦勞した事が無い。いや、本人にとっては苦勞なのだろうが、周囲と見比べると苦勞はしていない。

せいぜい、受験勉強を苦痛したという程度。それは父親も同じこと。裕福な家庭であるからこそ、両親は不幸知らずで育った。

いじめ等は当然の様に弱者がされる現象だと思い込んでいた。

世の中には「苛められる側にも原因がある」と言い責任のありかを弾圧される被害者に向ける者が意外にも多い。

ここまで読んだ方は信じがたいだろうが、実際にその手の話題は探せば幾らでも見つかる。

みやびの両親もだからこそ、死ねと平気で言えた。全く反省していないし、自分が酷い仕打ちをしたのだと微塵も思っていない。

『働いていない』という結果のみに着目し、世間の貞操が悪い事を受け入れられないだけである。

その気持ちは己が絶対に正しいと自負していて、家庭内で彼女の弟に彼女の悪口を言って聞かせた。

だからこそ、弟は姉に対して『精神病？ 演技してるんでしょ？』という言葉が出る。

病院を経営しているという社会的勝ち組みとして先代から、なんの苦勞もせずに生きてきた家族たちは、世間の思う不幸と自分達の思

う不幸が大きくすれ違う状況に要る。

『精神病は軟弱者がなる病気』『貞操が悪いから立場や地位の無い人間は家族として認めたくない』

だからこそ、壊れた彼女に対して経営学を学ばせたり、仕事を与えられる。

声優になる夢を応援していて、愛がある様にも思えるが、それはあくまで、家族なりの愛であり、世間が考える愛とは大きく違う。

両親にとっては夢を叶えてあげたいのではない。

声優という夢に向かって努力させ、途中で投げ出させ諦めさせて、実家に帰ってきてお見合いして結婚させたいのだ。

本当は病院経営の跡を継がせたいだけであり、軟弱者と思っているからこそ、夢で挫折する事を予期して金を援助した。

でなければ、彼女が実家に帰った際、夢が叶わなかった事を一緒に悲しんでくれる筈である。

でも、一貫して家族は彼女に努力を強制した。

それが彼女の幸せになると本気で信じていたのだ。

そして、それに拍車をかけて、彼女は社会の虐めの餌食となった。

そして、それに拍車をかけて、彼女は精神病が理解できない無知な人間から偏見と言う凶器でナイフを体に突き立てられる

だからといって、彼らを悪人として評価してはいけない。

憎むべき存在として評価してはいけない。

彼らは、一般的な人が感じる不幸を知らないのだから何を言っても理解できるはずが無い。

責任を求めれば悪者にされた理不尽感を消化できずにストレスを溜め込むだけ。

そうならば、病院業務に支障を起こすだろう。

場合によって診断ミス（誤診）をしてしまい人様に迷惑を掻けてしまう。

だから今、私はどうすべきか判らない。

私は、このまま諦めてしまふのだろうか・・・

・・・

実は、さっきの話も嘘でした。

いや本当だけどね。一部分が嘘。

でも、それも嘘。

本当は両親の情報が無さ過ぎて判らないのだよね。

すべてが間違ってるかもしれないし、すべてが正しいかもしれない。仮説に過ぎないのを書いてるだけなのね。

少なくとも仮説として以下の様な文章も必要

『両親は、みやびが夢を失った事実に対して、共感している様に悲しい顔を見せられなかった。そうすれば、みやび自身に将来に不安を植え付けるかも知れない。夢や希望が無いのだから、悲観的な態度はできない。だから、両親は、気にも止めていない様に、どうだって良い様な態度を取ってしまった。声優に関しては本気で応援していた。だからこそ、高い金を援助できた。』

勿論、病気に対して理解は無いのは事実だろう。

でも、両親はまだ、理解しようとするキツカケさえ与えられてない。

みやびの今の状況をオイラが書いたエッセイ『全人類これを読め』のラストのくだりのように、上級の両親の様な医者立場より遥かに高い権力者から間違いを指摘されれば、必ず、己の犯した過ちに気付こうと努力し変化する。

自殺未遂に対して母親の「死ぬ」発言の理由は今もって判らない。でも、その言葉の意味が明らかになるのも、あと少しである。

あと少しだけ辛抱すればいい。  
オイラの才能により、もう直ぐ、権力者がテレビで発言してくれる  
からね。

精神病の人にとって世界は良い方向に変わるのである。  
安心なされて良いし、心配無用、大丈夫である。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5846p/>

---

『みやび物語』 実在の人物が学習障害と統合失調症になるまでと病が改善す

2010年12月29日18時32分発行